

# 春風秋雨相

江利川毅 県立大理事長



識「検知」に関わる領域で人間の超える精度を実現しつつある。

しかし、ES細胞はヒト胚そのまま体内にあればヒトとなるものを壊して取り出すため、生命倫理の観点から問題とされた。内閣府が発足(2001年)したことで、総合科学技術会議で真剣に議論された。現在は、

日経新聞のコラム「核心」(3月26日)は、深層学習の大きな潜在力に触れつつ、その限界として次の2点を挙げている。一つは、評価手法がない分野や勝ち負けが曖昧な分野は苦手である。もう一つ技術的懸念として、経験的に学ぶだけではどんなに精度を上げても、どこか

完全な人工知能にたどり着く前に、開発のルールや限界を定める必要があるのかもしれない。■倫理問題の議論を話が変わるが、ヒトES細胞

「教師あり学習」と、勝利を報で間違つ可能性がある。酬に囲碁人工頭脳同士を対局させて鍛える「強化学習」(対局数は昨年10月の時点で3000万局)だけで、プロ棋士を破るまでに成長させた。深層学習は、適切な「入力データ」と教師データ」報酬データ」を用意できれば威力を発揮できる。これまで人間が担っていた「認

が発見されたころの話である。ES細胞とは着床寸前の受精卵から取り出した、体内の細胞に分化できる多能性を持つ幹細胞のことである。再生・移植医療への応用(ES細胞から作られた細胞を、機能を失った組織に移植し機能を取り戻すという治療)という観点から大いに注目を集めた。

## 試される人類の知性

■驚きと不安

■人類の終焉?

■倫理問題の議論を

「教師あり学習」と、勝利を報で間違つ可能性がある。酬に囲碁人工頭脳同士を対局させて鍛える「強化学習」(対局数は昨年10月の時点で3000万局)だけで、プロ棋士を破るまでに成長させた。深層学習は、適切な「入力データ」と教師データ」報酬データ」を用意できれば威力を発揮できる。これまで人間が担っていた「認

が発見されたころの話である。ES細胞とは着床寸前の受精卵から取り出した、体内の細胞に分化できる多能性を持つ幹細胞のことである。再生・移植医療への応用(ES細胞から作られた細胞を、機能を失った組織に移植し機能を取り戻すという治療)という観点から大いに注目を集めた。

## 人工知能の進歩

先月、米グーグルが開発した人工知能「アルファ碁」と韓国プロ棋士とが囲碁五番勝負をし、「アルファ碁」の4勝1敗であった。人工知能(AI)は1997年のチェス、2012年の将棋で、それぞれトップクラスの人に勝ったが、難しいと言われていた囲碁でも世界のトップクラスに勝てるようになったのである。

「アルファ碁」のソフトウエアには、囲碁のルールすら組み込